

アメリカ・カナダの 先進事例を調査

全国市議会議長会が主催する海外都市行政調査団が昨年10月にアメリカ・カナダに派遣されました。花巻市議会からは高橋好尚議員が参加し調査を行いました。その概要についてご紹介します。

調査日程＝平成19年10月10日～19日
調査先＝アメリカ ニューヨーク市
 ニューブランズウィック市
 マディソン市、ミルウォーキー市
 カナダ ウォータールー市、ミササガ市



ニューヨーク市のルースワーム小学校で安全強化策について説明を受けました

市民が参加して 復興計画を策定

～米国ニューヨーク市～

ニューヨーク市では、アメリカ同時多発テロ事件により倒壊したワールドトレードセンターとその周辺地域の復興計画が、市民参加により策定され、フリーダムタワー（高さ541m）を中心とした総額8,400億円に上る再開発工事が、2012年の完了を目指してスタートしていました。また、周辺地域の再開発のため、ロワーマンハッタン再開発会社を設立してしま

エンタープライズゾーンで市街地活性化

～米国ニューブランズウィック市～

ニューブランズウィック市では、中心市街地活性化のために、エンタープライズゾーンという、そこに商店を建てると、固定資産税や所得税などの減税や貸付金制度、債務保証などの優遇措置が受けられる区域を設けていました。減税の中で特徴的でありましたのが、売上税を半額にするというもので、商品を購入する人が店に支払う、日本の消費税のような税の減税は、そこで買物をする人にとってもメリットとなるため、多くの人をゾーン内に呼び込むことにつながっていました。また、ゾーン内で納められた売上税は、市に還元され再投資されることから、市街地のさらなる活性化に効果を上げており、大変参考になりました。

地域で行われる 精神ヘルスケア

～米国マディソン市～

アメリカ中西部で最も暮らしやすいといわれるマディソン市は、マディソンモデルと呼ばれる精神ヘルスケアを実施しています。

重度の精神障がい者が対象で、必要最小限の入院（平均8.9日）の後、地域に戻り、生活支援や就労支援など、社会復帰に向けたサービスが受けられるもので、18機関40プログラムという切れ目のないサービスが行われていました。このマディソンモデルは平均入院日数が300日を超えるのが国の状況について、考えさせられました。

バウチャー制度で学校選択に幅を

～米国ミルウォーキー市～

1990年にウイシコンシン州で創設され、ミルウォーキー市に導入された教育バウチャー制度は、低所得者層を対象として、幼稚園から高校3年生まで、一人当たり5,553ドルを上限とした

現金引換券（バウチャー）を支給するものです。制度利用の申請をした私立学校の授業料に充当できるバウチャーの支給で、低所得者層にも私立学校を選択できるようにになりました。また、選択の幅

が広がったことで、私立・公立学校間の競争原理が働くことから、各学校で教育の質の向上を図るようになっていきます。また、バウチャーを取り入れている学校と公立学校の比率は1対2程度とのことでした。この学校選択の幅を広げる制度は、参考になりました。

手続き期間の短縮で 企業誘致を推進

～加国ミササガ市～

ミササガ市では、早くから企業誘致を進め、歳入が固定資産税と施設使用料のみの市財政を黒字運営し、かつ財政基金を大きく積み立てていました。

カナダの玄関空港を有する同市は、企業進出が盛んで、日本企業も100社以上進出していました。その企業誘致においては、決定までの対応が早い、つまり手続き期間が短いという点をセールスポイントにしているとのことでした。

カナダ国内からの転入やアメリカや中国などからの移民受け入れによる人口増加と企業進出による経済発展を続ける同市を参考に、日本の人口減少に歯止めをかけることができないかと感じました。

市民が参加して 環境計画策定

～加国ウォータールー市～

いう結果を受け、環境長期計画を策定しました。この計画には、「計画と成長」「水資源」「大気質」「エネルギーと資源」「環境に対する意識」「緑地」の6大テーマと実施計画が盛り込まれており、専門家だけでなく市民やコンサルタントも参加して計画の策定から実施、監査まで行っていました。環境問題への取り組みとして、計画段階から市民も参加している点は、参考になりました。



ミササガ市では企業誘致について説明を受けました

カナダで最も美しい中小都市と評されるウォータールー市では、市民アンケートで安全・経済成長・環境に関心があると